

1. メソポタミアって・・・何？

突然ですが、世界4大文明をご存知ですか。

中国 インダス エジプトは
国の名前でよく聞きますがソポタミアって
どんな意味があるのでしょうか。



実は、「中国」という意味があります。

4大文明は、それぞれ川の名前とセットで、
中国文明は、黄河
インダス文明は、インダス川
エジプト文明は、ナイル川
メソポタミア文明は、チグリス・ユーフラテス川
なんだか長い名前ですね。
それは、2つの川の名前だからです。



メソポタミアとは、現地の言葉で、「大きな川にはさまれた真ん中の土地」という意味だそうです。

つまり・・・「中国ちゅうごく」 ということです。

実は、隣の国の中国も、元は 「黄河と長江にはさまれた真ん中の地」という事だった。
ということだそうです。共通しています。



そう言えば、日本にも中国というところがあります。
それは、中国地方です。

しかし 大きな川にはさまれた真ん中の土地には見えません。

大きな川にはさまれた
真ん中の土地？



なぜ日本の中国地方は、中国なののでしょうか？。

2. なぜ日本にも中国があるのでしょうか。

大きな川と川にはさまれていないのになぜ中国というのでしょうか。
そのヒントは、近畿地方にあります。

その意味は、

近→近い

畿→お城

「王様のいるところ」・・・だからです。



むかしは、奈良・京都からみて遠い国なので、
九州のことを「遠国おんごく」と読んでいました。

それで、近くの国と遠い国の間なので、
中国と呼ばれるようになったといわれています。



ここで、疑問が出てきます、「遠い国は近畿から見て西にしかないのか」ということです。

例えば、東の方向

関東地方を「遠国」、東海地方を「中国」と呼ぶことだって
考えられたはずです。



この疑問を解決する仮設は、

仮設その1・・・当時近畿地方は、国の東の端にあった。



つまり 今の鈴鹿山脈が国境であり

そこから 東は、外国だった。

と考えると「遠国おんごく」は西にしか
なかった事になります。

3. 九州の意味とは・・・

実は、九州は、古い中国語なんです。
その意味は、「王が九つの地域に分けて
支配した事に由来する。」
ということなのです。

九州＝古い中国語

【九州】とは
中国、夏(か)王朝の始祖禹(う)が中国全土を
九つの地域に分けたもの。「書経」禹貢によると、
冀(き)・兗(えん)・青・徐・揚・荊・予・梁・雍の九州。

大辞泉より

仮設その2・・・そうすると九州には、その昔 王国 があった？。

そうすると、近畿は「王様のいるところ」なので、九州にも「王国」があったと考えます。王国と王国にはさまれた真ん中の土地なので、「中国」地方と呼ばれるようになったと考えられます。



日本に、2つの王国があったと考えます。思いつくことがあります。

むかし日本は、「倭国」と呼ばれていた。それがいつの間にか「日本」と呼ばれるようになりました。もしかしたら、「倭国」と「日本」は別の国だったのかも知れません。



九州が「倭国」で、近畿が「日本国」だったのかも知れません。

実際、中国の古い書物「旧唐書」には、倭国伝と日本国伝が両方載っていて、別の国として書かれています。

「解説・資料編」

解説：遠国（おんごく、えんごく）とは、律令国の等級区分の一つである。古代日本の律令制の下において、地方行政区画の一環として、畿内からの距離によって国を分けた。その結果、「遠い位置にある国」が遠国とされた。出典: ウィキペディア

解説：令制国の成立は、昭和42年（1967年）12月、藤原京の北面外濠から「己亥（つちのとい、きどのいのしし、きがいの）年十月上狹国阿波評松里□」（己亥年は西暦699年）と書かれた木簡「上狹国（現千葉県）阿波評（安房地方）の松里とある。よみ：かずさのくに あはのこほり まつのさと：右図」が掘り出され郡評論争に決着が付けられたとともに、『日本書紀』にある大化の改新の諸政策は後世の潤色であることが判明しており、多くの令制国が確実に成立したと言えるのは、大宝元年（701年）に制定された大宝律令からである。出典: ウィキペディア



解説：『旧唐書くとうじょ』倭国伝・日本国伝 読み下し文（部分）

倭国

倭国はいにしえの倭奴国のことである。唐の都の長安を去ること1万4千里。新羅の東南の大海の中にある。倭人は山ばかりの島に依り付いて住んでいる。倭国の広さは東西は5か月の旅程で、南北は3か月の旅程であり、代々中国と通じていた。（略）

日本国

日本国は倭国の別種である。その国は日の昇る方にあるので、「日本」という名前をつけている。あるいは「倭国がみずからその名前が優雅でないのを嫌がって、改めて日本とつけた。」ともいう。またあるいは「日本は古くは小国だったが、倭国の地を併合した。」とも。その日本人で唐に入朝する使者の多くは尊大で、誠実に答えない。それで中国ではこれを疑っている。

彼らは「我が国の国境は東西南北、それぞれ数千里あって西や南の境はみな大海に接している。東や北の境は大きな山があってそれを境としている。山の向こうは毛人の国である。」と言っている。長安3年（703）、その大臣の粟田真人が来朝して国の特産物を献上した。（略）

4. 魏志倭人伝という書物

倭人 邪馬台国 卑弥呼 は、古代史に興味ない人にも知られている程ですが、どれも魏志倭人伝に登場する言葉です。

教科書には、魏志倭人伝と載っていますが、これは俗称で、「三国志 魏書第30巻 烏丸 鮮卑 東夷伝 倭人の条」というのが正式です。

そこに 邪馬台国の女王卑弥呼が、魏の国に貢物して、お返しに親魏倭王という称号と金印をもらった。ということが書いてあります。

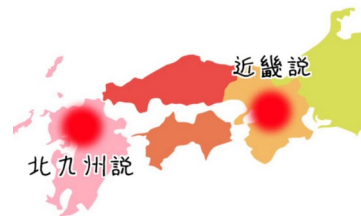
3世紀前半の中国は、魏・呉・蜀の3つの国に分かれていて、倭国は魏と付き合っていた。



日本の中で最も有名な古代都市、邪馬台国は未だにどこにあるのかわかっていません。

有力なのは、近畿説と北九州説ですが、それ以外に四国説や沖縄説など日本中に候補地が広がっています。

もともとは、邪馬台国は、大和の国で間違い無しといわれていましたが、江戸時代の有名な学者新井白石が「九州にも山門やまとあり！」といい出してそれ以来論争が続いています。



1940年代には、宮崎康平氏が「まぼろしの邪馬台国」1970年代には、古田武彦氏が「邪馬台国はなかった」を出版して空前の邪馬台国ブームが起こりました。

みんな邪馬台国を探したのですが結局はわからないままとされています。

邪馬台国がわからない原因は、日本の歴史書に全く姿を表さない点です。

では 日本の歴史書には、日本のことがどう書かれているのでしょうか。

古事記と日本書紀は、700年代はじめにできた書物ですが、なぜ同時期に2つの書物を作ったのか？、今でもわかっていません。

どちらも 神話時代～ヤマト朝廷初期の天皇家の歴史を描いています。

5. 天皇家の苗字

ところで天皇家は、日本で唯一苗字を持たない一族です。

でも最初からなかったとは考えられません。

いったい天皇家の苗字は何だったのでしょうか。

古事記によると最初の神様は、天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）、伊勢神宮に奉られている始祖神は、天照大神（あまてらすおおみかみ）、隨の国に遣隋使を派遣したのが、阿每多利思北孤（あめのたりしほこ）で、初期の天皇家では、あま（あめ）を名乗る人が多くみられます。

もしかしたら天皇家の苗字は、あま（あめ）だったかも知れません。

もともと苗字は、地名を名乗るのが普通で、清水の次郎長は、清水村の次郎長さんで、室町幕府をひらいた足利尊氏は、足利地方の尊氏さんとなります。

もし天皇家苗字が「あま」だったとしたら、その故郷は「あまくに」という事になると考えられます。

そう言えば天照大神（あまてらすおおみかみ）の住む場所は、高天原（たかまがはら）でした。「天」と言う言葉は美称で、実際は「海部あま」と考えられ、天皇家の故郷は海に近い「海峡国家」だったのではないかと考えられます。

そこを守る氏神様（その土地に住む人達を護っている神様）が、天神様です。

菅原道真公（すがわらみちざねこう）を奉るようになってからは、学問の神様となりましたが、それ以前は「天国あまくに」を護る神様だったと考えられます。

天皇家は、唯一無二の一家になったので苗字がなくなったのです。

解説：本来、天神とは国津神に対する天津神のことであり特定の神の名ではなかった。

天津神・国津神（あまつかみ・くにつかみ）は、日本神話に登場する神の分類である。

大国主など、天孫降臨以前からこの国土を治めていたとされる土着の神（地神）を「国津神」、天照大神などがいる高天原の神を「天津神」という。

出典: フリー百科事典ウィキペディア

6. 伊勢神宮の正式名称

天照大神（あまてらすおおみかみ）は、伊勢神宮に奉られています。

伊勢神宮というのは俗称で、「神宮」が正式名称です。

明治になってから明治神宮や平安神宮など多くの神宮ができて、それらと区別するために「伊勢神宮」といいますが、それまで明治以前は、神宮といえば「伊勢神宮」しかありませんでした。

天皇家と同じ唯一無二（オンリーワン）の存在だったのです。

だから今でも「神宮」が正式名称なのです。

ところで天照大神（あまてらすおおみかみ）は、どうして始祖神になったのでしょうか。日本のアダムとイブは、伊弉諾神（いざなぎのみこと）伊邪那岐命（いざなみのみこと）で、天照大神（あまてらすおおみかみ）はその子供で、三貴神（天照大神、月読命つくよみのみこと、須佐之男命すさのおのみこと、）の一人として、高天原を治めていました。

その孫が、天孫降臨した瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）です。

その息子が浦島太郎のモデルとなった山彦（山の神）で、その孫が初代の天皇となった神武天皇です。天照大神（あまてらすおおみかみ）は神武天皇にとっては偉大なご先祖様だったのです。

実は魏志倭人伝に登場する卑弥呼は天照大神だったという（安本美典氏の）説があります。確かに共通点は多い（女帝、弟がいる、いなくなったら世が乱れた・・・など）です。

しかし、一つだけ困った事実があります。

日本書紀の中で唯一天皇でもないのに帝紀（ていき：天皇あるいは皇位継承を中心とする古代の伝承または史書）をたてられている人物がいます。

それは15代応神天皇の母である神功皇后（じんぐうこうごう）です。

その神功皇后の記録の中に卑弥呼と云う名前を削った倭人伝の文章がそのままコピー＆ペーストされています。

つまり日本書紀を書いた人物は、確実に魏志倭人伝を読んでいる事になります。

もし天照大神と卑弥呼が同一人物だったなら天照大神の実績として書けばいいし、天照大神と卑弥呼が同一人物なら卑弥呼という名前を隠す必要もないと思われます。

つまり中国の歴史書に出てくる卑弥呼が誰なのか当時の日本人にはわからなかったという事になります。（もしくは、違う王朝の人物だったために隠した可能性もあります。）

「解説・資料編」

解説：「古事記・日本書紀」神話の中で「イザナギとイザナミ」の国産み神話の島々は瀬戸内海を含む日本海側の西日本エリア（佐渡島含む）となっています。

（解説：天の〇〇という古名をもつ対馬海流上の島々）

つまり「古事記・日本書紀」はこの西日本エリアの出来事であり、この時点での王権（王朝）の勢力範囲と考えると現実的です。

解説：天降りの場所

①日本書紀：第六段一書第一、素戔鳴尊「筑紫の州に降らしむ。」

②古事記：事代主神の服従、建御雷の神「出雲国の伊耶佐の小浜に降り到りて」

③日本書紀：第八段一書第四、素戔鳴尊「新羅の国に降り到りて、曾戸茂梨（そしもり）の処に居す。」

西晋の陳寿により3世紀末（280年（呉の滅亡）-297年（陳寿の没年）の間）に書かれ、陳寿の死後、中国では正史として重んじられた。

・倭人は帯方の東南大海の中にあり、山島に依りて國邑をなす。旧百余國。漢の時朝見する者あり、今、使譯通ずる所三十國。（略）南、邪馬壹國に至る、女王の都する所、水行十日・陸行一月。（略）郡より女王國に至る、萬二千余里。

[illegible]

『魏志倭人伝』のころは、天子を指す言葉として「臺」を使用しており、天子に合うことは「臺に詣でる」とあります。なお国名の「邪馬壹國」は『魏志倭人伝』だけで使用されています。現在残っている版木全てが、「邪馬壹國」となっているとのこと。

初代の神武天皇は、137歳まで生きたと古事記に書かれています。
とんでもない長寿だと思います。

1代	神武天皇	137歳	10代	崇神天皇	168歳
6代	考安天皇	123歳	11代	垂仁天皇	153歳
7代	考靈天皇	106歳	12代	景行天皇	137歳
			15代	応神天皇	130歳

その理由として、「朝廷の歴史を古く見せるために年齢を創作した。」と云われていますが、どうも不思議です。

7

ところが最長でも崇神天皇の168歳です。何か他に理由があるのでしょうか。

仮設があります。それは、「2倍年暦」という考え方です。

かつての日本（倭）は、今の半年で1年と数える暦を使っていたというものです。

その痕跡は、今も残っていて、例えば

①「大晦日（12月31日）全国の神社で行われている「大祓おおはらえ」1年間の罪と穢（けがれ）を祓う行事があります。

実はこの「大祓おおはらえ」の行事は6月30日にも行われています。

②日頃のご挨拶も、盆と暮の2回しています。

もし「2倍年暦」を使っていたとしたら最も長く生きた崇神天皇の168歳も84歳となって長寿としておかしくない年齢になります。

また聖書によりますと、アダムは930歳、ノアの方舟で有名なノアは950歳まで生きたといえます。ありえない長寿と云えますが、これも月の満ち欠けの28日で1歳と考える暦を使っていたと考えると今の70歳代になります。（いわゆる12倍年暦）

「こよみを制した者が王になる！」そんな格言があるように、むかしの王様はみんな暦を自分のものにしようとしていたといわれています。

「解説・資料編」

解説：大祓詞・大祓式（おおはらえしき）とは：毎年旧暦の六月と十二月の晦日（みそか）に御所の朱雀門（すざくもん）で行われた「大祓式」で皇族以下百官に宣下した祝詞が「大祓詞（延喜式〔927年〕）」です。（中臣祭文なかとみのさいもん、中臣祓なかとみのはらへとも言われます）

祓物（はらえつもの）を出して、祓戸の神の神威によって罪穢（つみけがれ）を解除（げじょ）する儀式であり、半年毎に恒例のものとしておこなわれるので「二季の祓にきのはらえ」と称します。大祓式で唱えられる祝詞が「大祓詞」（おおはらえのことば）です。

大祓は六月と十二月の末日に半年間の罪や穢（けが）れを祓（はら）うもので、イザナギノ命の「禊祓みそぎはらえ」が原型です。

大祓詞を奏上して、身体や心（精神）に滞（とどこお）った「汚穢（おえ）」を、ハラエとミソギでぬぐい去ります。「ハラエ」は、大麻（おおぬさ）を用いて祓い、「ミソギ」は水で身体を洗います。

大祓詞は大まかに、天皇の命により祓の神々に、罪、災い、汚穢（おえ）を移し、海原に出て流し捨て去る、という内容です。

「これは天皇の命で実行したために、身に付いた罪、災い、汚穢（おえ）を祓うことで、天皇が（天皇のために働いた）家来たちのために行う儀式のことです。」

かつて大祓詞は大祓式の参列者に向けて読まれたものでしたが、今日では神に向け奏上するようになりました。

解説：「二倍年暦」について

『魏志倭人伝』の伝えられる写本の中には、「五世紀」南朝「劉宋」の史官であった「斐松之」という人物が他の史書を参考にして「注」をつけたものがあります。その中に『魏略』という書からの引用があり、「倭人、春耕秋収を記して年紀となす」という文章が書かれてあります。これについては「年紀」が「年数」を意味するものであり、「春耕」から「秋収まで」を計ってそれを一年としているという意味と考察できます。

資料：古代の天皇の寿命表 古事記（日本書紀） ○80才以上

○	1	神武天皇	137(127)
○	2	綏靖天皇	45(84)
	3	安寧天皇	49(57)
	4	懿徳天皇	45(77)
○	5	孝昭天皇	93(113)
○	6	孝安天皇	123(137)
○	7	孝霊天皇	106(128)
○	8	孝元天皇	57(116)
○	9	開化天皇	63(111)
○	10	崇神天皇	168(120)
○	11	垂仁天皇	153(140)
○	12	景行天皇	137(106)
○	13	成務天皇	95(107)
	14	仲哀天皇	52(52)
○	15	応神天皇	130(110)
○	16	仁徳天皇	83(110)

解説：「古代人の寿命」

縄文人の場合は、30才くらいと考えられています。これは、貝塚から発掘される骨から確定できるといわれます。

しかし、弥生時代の人骨は発掘されること自体大変少なく、弥生人の骨は土に帰ってしまうといわれます。

縄文人は、貝塚の近くに骨を埋葬しました。カルシウム分の多い土に埋葬された骨は、土に帰らず残るといわれます。

一方、弥生時代は稲作が始まっています。貝塚のようにカルシウム分の多い土には埋葬されなかったため、弥生人の骨は土に帰ってしまったのです。

佐賀県の吉野ヶ里遺跡は有名ですが、発掘された人骨によると、弥生人は渡来系らしい特徴を備えているといわれます。縄文人に比べると背が高く、平均寿命は30～40歳ぐらい。遺物には紐のついた毛髪もあり、髪を結っていたこともわかります。

（ここでいう30歳は、15歳以上生存した人間の寿命です。）

弥生時代は、稲作が生活の基盤となり、鉄器や青銅器の使用が始まった時代といわれます。吉野ヶ里でも農耕によって飛躍的に人口が増加し、人々を統率する王も現れました。一般の墓地とは別に王族を祀る巨大な墳墓がそれを物語っています。

古代は幼児期の死亡率が高く、縄文時代～弥生時代の死亡率は50～60%という数字も見えます。大正末期に幼児期死亡率が、15%以上あったといわれますので、大袈裟な数字ではないかと思います。

15歳以上に達した者の平均死亡年齢の時代変遷は、人口問題研究家の小林和正氏による

縄文時代：男31.1歳／女31.3歳

弥生時代：男30.0歳／女29.2歳

古墳時代：男30.5歳／女34.5歳

室町時代：男35.8歳／女36.7歳

江戸時代：男43.9歳／女40.9歳

（古人骨より推定）

1891～98年調査：男55.7歳／女57.1歳

1965～66年調査：男70.3歳／女75.0歳

（人口統計）

ちなみに、「平均寿命」とは、「0歳児における平均余命(後どれくらい生きられるか)」ですが、紀元前11世紀～1世紀「縄文時代」の日本人の寿命は、男女とも、14.6歳。紀元前8世紀～3世紀「弥生時代」3世紀～7世紀「古墳時代」に入っても、「縄文時代」と、ほとんど平均寿命は変わらず、「室町時代」(1338-1573)では15.2歳くらいと推定されています。

8. 2月はどうして28日までなのでしょう。

ほかの月は30日か31日あるのに、なぜか2月は28日しかありません。

また4年に1回やってくる閏年の調整も2月という中途半端な月に行うのは、どうしてでしょう。

実は、「昔 1年の始まりは3月だった。！」

紀元前8世紀頃のローマで使われていたカレンダーは、10ヶ月しかなかった。

農耕をしない冬の2ヶ月は、暦がなかった。

その頃は、1年の始まりは March（マーチ）今の3月だった。

ちなみに 9月のSeptember（セプテンバー）は7番目の月で、10月のOctober（オクトーバー）は8番目の月という意味となっています。タコは足が8本だから Octopus(オクトパス)にといわれています。

その後 January（ジャニアリー）今の1月と February（フェビュラリー）今の2月が創設されて、1年は12ヶ月になりました。それでも 1年の始まりは3月のままでした。

年始 3月 4月 5月 6月 7月 8月
9月 10月 11月 12月 1月 2月 年末

そこで日程の調整は、年末の2月にすることになっていた。

有名なローマ王のユリウス・スカエサル（ジュリアス・シーザー）の時代に暦が変更されて1月が年始になったのだが、日程の調整は（閏年）2がつのみで現在に続いています。ちなみに 7月 July（ジュライ）は（ジュリアス・シーザー）の名前からつけられました。そして8月の August（オーガスト）は皇帝アウグストゥスの名前からつけられました。

曜日の順番 「日 月 火 水 木 金 土」これは、古代のギリシャ人が地球から近いと信じていた順番につけたと云われています。

この時代は、地球を中心に宇宙が回っていると思われていた「天動説」の時代だった。

日本では、明治になるまで、月の満ち欠けを基準にした太陰暦を使っていました。

9. なぜ神無月に神様がなくなるのか？。

日本では、明治になるまで、月の満ち欠けを基準にした太陰暦を使っていました。

だから 1ヶ月は28日となります。12ヶ月で336日で、現在のカレンダーよりも365日－336日＝29日 足りなくなります。

そこで閏年ならぬ閏月を設けて、1年を12ヶ月＋閏月＝13ヶ月で過ごしていました。

順に 1月（睦月むつき）	2月（如月きさらぎ）	3月（弥生やよい）
4月（卯月うづき）	5月（皐月さつき）	6月（水無月みなづき）
7月（文月ふみづき）	8月（葉月はづき）	9月（長月ながつき）
10月（神無月かなづき）	11月（霜月しもつき）	12月（師走しわす）

10月（神無月かなづき）の由来は、年に1回神様が出雲に出かけてしまって神様がなくなる。それで神無月です。

出雲では神様が集まって来るので、10月を神在月（かみありつき）と言います。

どうして神様はみんな出雲に集まるのでしょうか。

天照大神がいる伊勢に集まれば良いのではないかと思います。

どうやらその昔出雲が日本の中心だったのではないかと。この疑問がわきます。



神話の中に国譲りという話があります。

高天原にいた天照大神が出雲の神だった大国主命に対して、あなたの国を譲れと命令してその後天孫降臨した瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）が支配した。という話です。

つまりそれ以前は出雲が国の支配者だったが、征服されたという事になります。

大国主命は大きな社（やしろ）、今の出雲大社を造ることを条件として国を譲り黄泉の国の王として今もそこで奉られています。

黄泉の国とは死の国のことで、黄泉の国から帰ってくることを「よみがえる」といいます。

そういえば出雲大社だけ拝礼の儀式が違います。ほとんどの神社は「二礼二拍手一礼」といって拍手は2回ですが、出雲大社では拍手は4回で、「二礼拍四手一礼」となっています。「四」というのは「死」を連想させます。

平安時代の数え歌に「雲太うんた 和仁わに 京三きょうさん」というのがあって、



雲太うんた



和仁わに



京三きょうさん

雲太は出雲大社、和仁は大和の東大寺大仏殿、京三は京都の大極殿 のことで大きな建物の順番を表しています。大極殿とは天皇の住まいのようなもので王様の屋敷より大きな建物を滅ぼした国の王のために建てる事は、ほかの国では考えられないことです。

ところが日本では、この考えられないことが普通に行われています。

10. 怨霊の祟りを恐れた日本人

出雲大社は現在24メートルの高さですが、その昔は倍の48メートルだった事が記録に残っていました。誰も信じていなかったのですが、巨大な柱の跡が発掘されました。今では間違いないとされています。

出雲は後の大和朝廷（実は九州王朝）に征服された国といわれていますが、なぜ征服された王のためにそんな巨大なものを建てたのでしょうか。

それは怨霊が怖かったからだといえます。

古代の日本では「不遇のまま死んだ人は怨霊になって祟りをなす。」と信じられていました。それを恐れて手厚く祀る習慣が根付いたといわれています。

墓石も元々は死者がよみがえるのを防ぐためという説があります。

天照大神たちにとっては滅ぼした国の王は最も恐れた怨霊だったのではないのでしょうか。

出雲大社は、大国主命の魂を鎮めるために建てられた一大モニュメントなのです。



昔の人は、地震も台風も流行病も怨霊の祟だと思っていたと考えられます。
例えば紫式部の書いた源氏物語は、光源氏が主人公の長編恋愛小説ですが、スポンサーは当時の最大権力者の藤原道長です。

光源氏にはモデルがいます。

当時左大臣まで上りつめた源高明（みなもとのたかあきら）です。

二人はライバル関係でした。

最後は源高明は、失脚し不遇な中で死んでしまった。

物語の中では、光源氏が事々に藤原氏に勝利する。

そのため中には、藤原氏に近い紫式部が書いたとは思えないと疑問視する研究者もいるくらいです。でもこれも源氏の崇りを恐れた結果と考えればスッキリします。

藤原道長は源高明に対して「物語の中で存分に活躍させるからどうか崇らないでくれ」と祈ったのではないのでしょうか。

源氏物語は「怨霊封じの書」だったのかも知れません。

ところで 源氏物語の作者は紫式部だといわれていますが紫式部は名前ではなく、彼女の本当の名前は誰も知りません。ここに日本人が持っている不思議があります。

解説：源高明（みなもとのたかあきら）は、平安時代の公卿。醍醐天皇の第10皇子。母は源周子。法名は覚念。官位は正二位・左大臣。京都右京四条に壮麗な豪邸を建設し、西宮左大臣と呼ばれた。

一世源氏の尊貴な身分であり、学問に優れ朝儀に通じており、また実力者藤原師輔、その娘の中宮安子の後援も得て朝廷で重んじられた。師輔・安子の死後、藤原氏に忌まれて安和の変で失脚し、政界から退いた。

安和の変（あんなのへん）は、平安時代の969年（安和2年）に起きた藤原氏による他氏排斥事件。謀反の密告により左大臣源高明が失脚させられた。

11. 誰も知らない「本当の名前」

源氏物語は紫式部、枕草子は清少納言と誰でも知っている平安時代の二大作家です。

しかしこれらは、彼女たちの名前ではありません。

紫は「あだな」で、式部は「朝廷に仕えた女官の役職名です」

清は「父方の性（清原）から」で、少納言は「朝廷内の職を表しています」

二人だけではなく

蜻蛉日記（かげろうにっき）は、藤原道綱の母（ふじわらのみちつなのはは）

和泉式部日記（いずみしきぶにっき）は、和泉式部（いずみしきぶ）

更級日記（さらしなにっき）は、菅原の孝標の女（すがわらのたかすえのむすめ）

など、余程位の高い女性以外は、本名を名乗らない。本名は両親と結婚相手しか知らない。当時女性に名前を尋ねるということは、プロポーズ（結婚を申し込む）することと同じだった。「名は体を表す」という言葉があるように、名前はその人自身という考えがあり日本には名前を呼ぶのを避ける風潮があります。

今でも役職がある人には、社長、部長と役職名で呼ぶし、普通は、鈴木さん・佐藤さんと苗字でびます。余程親しくないとお〇〇ちゃんと名前と呼ぶことは少ないと思います。事情は、男性も同じで 基本、本名は名乗らないし呼ばなかった。

明治時代になるまで、本名は「忌み名」と言って、親・兄弟しか知らなかったのです。そうすると不便なので、そこで呼んでもいい名前「字あざな」を持っていたのです。幕末の有名人坂本龍馬（さかもとりょうま）の龍馬は字だから皆んな「りょうまさん」と呼んでいた訳です。坂本龍馬（さかもとりょうま）の本名は直陰（なおかげ）でした。

ところが西郷隆盛（さいごうたかもり）の隆盛（たかもり）は本名だったので、彼を隆盛さん（たかもりさん）と呼んだ人はいません。

彼の字は吉之助（きちのすけ）で、みんな吉さん（きちさん）と呼んでいたのです。

それどころか隆盛は彼のお父さんの名前だったのです。

本当の名前は、隆永（たかなが）ということでした。

どうやら明治になってからお父さんの名前と間違えられたのですが面倒だからそのままにしておいたといわれています。

それくらい本名はまわりに知られていなかったということになります。

こうした名前の不思議は日本人が古来から持っていた「言霊思想ことだましそう」に根付いているといわれています。

12. 日本人は今も言霊に縛られている。

言霊信仰というのは、文字通り「言葉に魂が宿っている」、言葉を変えて言うと「言葉にしたことは現実に起こると信じていること」となります。

みなさんは、「それは昔の話で現代人はそんな信仰はない」と、いうと思いますが。

ところが現代人も言霊思想は強く持っていると思います。

例えば、受験生の前で「すべる」「落ちる」なんていわないし、ハレの結婚式で「別れる」「こわれる」なんていわないと思います。縁起が悪いといえます。

これこそ「言葉にしてことは現実に起こると信じている証拠」といえます。

そのため縁起の悪い言葉をいい換える習慣があります。

パーティの終了は「お開き」、するめは「あたりめ」、鏡割りは「鏡開き」、刺し身は「魚の切り身は身を切るようで縁起が悪いといい換えられました」、映画のことを「キネマ」といいますが、元々のシネマが「死ねま」に似ているのでいい換えられました。現代人も「言霊」の中に生きています。冗談で君は受験に失敗するといったら、本当に不合格になってしまったら「俺があんなことをいったばかりに」と後悔するに違いありません。

冷静に考えれば「受験に失敗する」といった事と本当に不合格になったことに因果関係はありませんが。それでも人は後悔の気持ちになります。言霊です。

古代の人はもっと言霊にとらわれていました。

言葉にしたことが、現実にかかる訳ですので、当時の政治家（貴族）の仕事は「和歌を詠む」ことだった。「平和になればと詠えば、平和になる」「豊かになればと詠えば、豊かになる」のだから簡単です？。

8世紀中頃に成立した万葉集は、世界最古の歌集です。

また竹取物語も世界最古の物語といわれています。

これらも全て「言霊」の成せるワザです。

言葉にすると現実のものになってしまうというので、日本人は「言葉を慎重に発する」ようになった。「沈黙は金」「目は口ほどにものを言う」なんて考え方も言霊思想から生まれたのではないのでしょうか。おかげで、少し前までの日本人は、世界から「何を考えているのかわからない。」とか「自己主張しない。」とかいわれたりもしました。（了）

参考資料

- ・卑弥呼の謎(19721024) 安本美典（やすもとびてん） 講談社現代新書
- ・邪馬台国はなかった(19771010) 古田武彦（ふるたたけひこ）角川文庫
- ・風土記にいた卑弥呼(19880420) 古田武彦（ふるたたけひこ）朝日文庫
- ・逆説の日本史1～4 (19980101) 井沢元彦（いざわもとひこ）小学館文庫
- ・倭国伝 (20100913:中国正史に描かれた日本)、藤堂明保・竹田晃・影山輝圀、株式会社講談社
- ・別冊宝島 2465 (20160627:古代史再検証邪馬台国とは何か)、瀧音能之、株式会社宝島社
- ・新訂古事記 現代語訳付 武田祐吉訳注 中村啓信補訂 角川ソフィア文庫
- ・日本書紀上下 全現代語訳 宇治谷孟（うじたにつとむ）、鈴木哲、株式会社講談社
- ・続日本紀 朝日新聞本（全十二巻佐伯有義、朝日新聞社、昭和 15）三・四を体系本・諸本で補訂
- ・その他ネット検索

日本の勅撰でつくられた正史は、以下のとおりです。

①勅撰・・天子の勅（みことのり）によって選したもの。

②六国史のみ（すべて編年体です。）

- ・日本紀 →日本書紀のことでしょうか？。
- ・続日本紀
- ・日本後紀
- ・続日本後紀
- ・文徳実録
- ・日本三代実録

日本紀講筵（講書）

721 年	812 年
843 年	878 年
904 年	936 年
965 年	

日本書紀の「書紀」とは、古事記と日本紀を併せた略称とすると、現在の記紀に相当する呼称と考えられます。

- ・現在では・・記紀＝古事記＋日本書紀 のこととしていますが
- ・書名の事実としては・・書紀＝日本書＋日本紀 の事と考えられます。

左衛門の内侍と言う人がおります。この人が私のことを、妙によく思っていなかったのも知らなかったのですが、その人が言っている、心が重くなってしまうような陰口が、多く耳に入ってきます。

一条天皇が、『源氏の物語』を、人にお読ませになられては、お聞きになっていた時に、「この『源氏の物語』を書いた方は、日本紀などの歴史書を読んでいるに違いない。真に、学識があるのだろう」

と一条天皇が仰ったのを、左衛門の内侍は、勝手な想像で、「とても学がある」

と、殿上人などに言い回って、「日本紀の御局」などとあだ名をつけたのですが、まったく、笑みが溢れてしまいそうです。実家の侍女の前でさえ、漢籍を読まないようにするのに、宮中のような公の場で学をひけらかすことがありますでしょうか。

弟の式部の承が、子どものころで漢籍を読んでいた時に、私はその近くの他所で漢籍を読んでいるのを聞き習っていると、弟は遅く読み取り、忘れてしまうところでも、私は早く理解いたしましたので、漢籍に熱心であった父は、「残念だ、この子を男子として授からなかったのは、幸せのないことだ」と、いつも嘆かれておりました。

それなのに、「男でさえ学者ぶっているような知識をひけらかすものは、どうかと思われるでしょう。栄達しないですよ」と、他の人が言うのを、だんだんと耳にするようになってからは、“一”という字でさえ書かないようにして、とても無学であきれたものです。

訳註

○左衛門の内侍（ないし） —— 内裏女房（当時のお手伝いさん）です。一般的には、女房とは后や、貴族などの家に仕える女性です。つまり、私的な存在です。しかし、この方は、天皇に仕える女官のようで、公的な存在だったようです。

○侍女（じじょ） —— 貴人のそばで仕える女性。

○日本紀 —— 日本書紀。ここでは、それ以降の六国史（＝いくつかの歴史書をまとめて表す言葉）も指しています。

○一条天皇 —— 第66代天皇（在位:986年8月1日（寛和2年6月23日）-1011年7月16日（寛弘8年6月13日））一条天皇の時代は道隆・道長兄弟のもとで藤原氏の権勢が最盛に達し、皇后定子に仕える清少納言、中宮彰子に仕える紫式部・和泉式部らによって平安女流文学が花開いた。

左衛門の内侍といふ人はべり。あやしうすずろによからず思ひけるも、え知りはべらぬ心憂きしりうごとの多う聞こえはべりし。

内裏の上の『源氏の物語』、人に読ませたまひつつ聞こしめしけるに、

「この人は、日本紀をこそ読みたるべけれ。まことに才あるべし。」

と、のたまはせけるを、ふと推しはかりに、

「いみじうなむ才がる。」

と殿上人などに言ひ散らして、「日本紀の御局」とぞつけたりける、いとをかしくぞはべる。この古里の女の前にてだにつつみはべるものを、さる所にて才さかし出ではべらむよ。

この式部の丞といふ人の、童にて書読みはべりし時、聞き習ひつつ、かの人は遅う読みとり、忘るるところをも、あやしきまでぞ聡くはべりしかば、書に心入れたる親は、「口惜しう。男子にて持たらぬこそ幸ひなかりけれ」とぞつねに嘆かれはべりし。

それを、「男だに才がりぬる人は、いかにぞや。はなやかならずのみはべるめるよ」と、やうやう人の言ふも聞きとめて後、一といふ文字をだに書きわたしはべらず、いとてづつに、あさましくはべり。